

(別紙4(2))

事業所名 グループホーム ドレミ

作成日: 平成 30年 2 月 9 日

目標達成計画書

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	自己番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議を活かした取り組み	会議のメンバーが固定化して、内容も画一化しているため、新しい参加委員を増員し、会議が充実した内容になるように議題や内容を検討し、参加委員が会議に魅力を感じて、参加したくなる運営推進会議を目指していく。	参加委員を複数の民生委員や、地域で活動している有識者、知見者等に参加要請し、意見や要望、地域の問題等を話し合い、解決に向けて取り組み、ホームの繁栄だけではなく、地域貢献にも取り組んで行く。また、家族が参加しやすい日時に合わせて開催することも検討していく。	12ヶ月
2	13	職員を育てる取り組み	ベテラン職員や新人職員がいて、介護力に差があり同じ介護を提供しても、利用者の満足に繋がらないことも多いので、カンファレンスの中で職員間で話し合い、統一したケアが出来る体制を整えていく。	職員の意欲や習熟度に合わせて外部研修に、交代で参加してもらい、職員の知識や介護技術の向上を図り、どの職員が介護しても同じレベルのケアが出来る支援に取り組み、職員の意識の高揚に取り組んでいく。	12ヶ月
3	51	日常的な外出の支援	職員の勤務体制や介護力にばらつきがあるので、職員一人ひとりの介護知識の習得と、介護技術の向上を図り、「目配り、気配り、心配り」を常に意識した外出の支援に取り組む。	職員の意欲や意識改革に取り組み、利用者が楽しめる外出を行い、日常的な散歩や買い物ができる体制に取り組み、利用者の気分転換に繋がる外出の支援を目指していく。	12ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。